

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
 【発行日】平成26年6月19日 (2014.6.19)

【公開番号】特開2012-130693(P2012-130693A)  
 【公開日】平成24年7月12日 (2012.7.12)  
 【年通号数】公開・登録公報2012-027  
 【出願番号】特願2011-277817(P2011-277817)  
 【国際特許分類】

A 6 3 B 53/04 (2006.01)

【F I】

A 6 3 B 53/04 A

【誤訳訂正書】  
 【提出日】平成26年4月17日 (2014.4.17)  
 【誤訳訂正 1】  
 【訂正対象書類名】明細書  
 【訂正対象項目名】0 0 2 4  
 【訂正方法】変更  
 【訂正の内容】  
 【0 0 2 4】

内部遷移領域 3 2 2 と同様に、外部遷移領域 3 2 4 も垂直方向に対称でない。上側外部遷移領域 3 2 4 a は全般的には下側外部遷移領域 3 2 4 b より厚くてよい。より具体的には、上側外部遷移領域 3 2 4 a の厚さ d 4 は打撃フェース 3 0 2 のクラウン部分の近くで全般的には約 2 . 9 0 mm から約 2 . 9 3 mm へ、より好ましくは約 2 . 8 0 mm から約 2 . 8 3 mm へ、最も好ましくは約 2 . 7 0 mm から約 2 . 7 3 mm へ遷移して良い。下側外部遷移領域 3 2 4 b の厚さ d 5 は打撃フェース 3 0 2 のソール部分の近くで徐々に約 2 . 8 0 mm から約 2 . 7 8 mm へ、より好ましくは約 2 . 7 0 mm から約 2 . 6 8 mm へ、最も好ましくは約 2 . 6 0 mm から約 2 . 5 8 mm へ遷移して良い。上述の種々の厚さ d 1、d 2、d 3、d 4、および d 5 に基づいて、この発明の事例的な実施例に示される打撃フェース 3 0 2 は、厚い上方部分、薄い下方部分を、厚肉の中央領域 3 2 0 とともに伴ってゴルフクラブヘッド 3 0 0 の性能を最適化する幾何構造を形成することがわかる。換言すれば、上側内部遷移領域 3 2 2 a および上側外部遷移領域 3 2 2 b が相互に組合わされて打撃フェース 3 0 2 の上方部分の近くで懸垂曲線を形成し、他方、下側内部遷移領域 3 2 2 b および下側外部遷移領域 3 2 4 b が厚さをコンスタントに減少させる曲線を形成する。